

情報共有の促進・業務の効率化を目指して～ADL 表の作成と活用～

朝倉医師会病院リハビリテーション科 ○佐藤里佳 流合芽衣子 青木慎吾 下川裕

【はじめに】現場で病棟スタッフよりトイレ誘導などの移動手段を問われることがある。カルテ上で動作状況や介助量の情報共有を行っているが、すぐに確認できるものではなく、一人の患者に複数のスタッフが介入するような環境では情報共有が不十分となっている。また、情報の確認に時間を要し、適切な介入を行うことが出来ない現状がある。そこで多職種間で簡便かつ迅速に理解可能な情報共有ツールとしてADL表を作成・導入した。加えて、ADL表が患者の移動・移乗動作の方法を適切かつ即時に把握するツールとして有効かどうかの判定の為、病棟スタッフに対して導入前後でアンケートを実施したためここに報告する。

【方法】

1、研究期間：令和4年10月3日～令和4年11月19日

2、研究対象：3西病棟 看護師・看護助手 研究に対して全員から同意を得た。

3、実施方法

1) アンケートの実施（ADL表導入前）31人中29人回答

患者の移動、移乗の方法について情報収集の方法と情報収集する際の不便さの有無、改善できればよいと思う点について、対象者へアンケートを実施した。

2) ADL表の活用：活動範囲、移動手段、介助量、時間帯、更新日を記載

3) アンケートの実施（ADL表導入後）31人中30人回答

導入前に実施したアンケート内容と同じものに、業務の効率が上がったか、今後も活用できるか等の質問を加えて対象者へアンケートを実施した。

【結果】「患者さんを誘導する際にベッドネームを見ますか」に対して、導入後は確認する人が11%増えた。「患者さんを誘導する際に移動手段で悩むことがありますか」では、導入後は悩む人が55%減った。「情報収集の具体的な方法」に関してベッドネームを選択した人が225%増加した。「今後、ADL表を継続して導入するとしたら活用すると思いますか」については、はい29人（97%）「ADL表の導入により業務が行いやすくなりましたか」については、はい25人（83%）、どちらでもない5人（17%）という結果となった。

【考察】今回のアンケートでは、ADL表の活用によりベッドネームをみるスタッフが増え、移動手段で悩む割合が減少していることから、業務の効率化を図れたと考える。また、「移動手段がその都度変更されるためわかりやすかった」との意見が多数あり、ADL表を活用し患者に合った適切な介入が行えることは転倒リスクの軽減やADL向上に繋がるのではないかと考えた。

厚生労働省はチーム医療とは「医療に従事する多種多様な医療スタッフが各々の高い専門性を前提に、目的と情報を共有し、業務を分担しつつも互いに連携・補完し合い、患者の状況に的確に対応した医療を提供すること」と定義している。今回導入したADL表は他職種の連携をスムーズにすることができるツールの一つとなり、さらにADL向上や転倒リスクの軽減など質の高い医療の提供につながるのではないかとと思われる。本研究を基に、他職種で意見交換をしながら改善を加え、今後全病棟へ拡大し、ADLや転倒件数などの変化も評価していきたい。

【参考文献】厚生労働省：チーム医療の促進に関する検討会報告書（H22.3）